

## 令和4（2022）年度卒業生 学習成果アンケート結果

本学現代子ども学科では、卒業認定・学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー）に定める「使命感」「総合的な子ども理解」「コミュニケーション・課題解決」「ICT活用」といった資質・能力を、「学習成果アンケート」によって把握してきた。

以下に、令和3（2021）年4月に入学し、令和5（2023）年4月に卒業した令和4（2022）年度卒業生の学習成果を中心に述べる。

「学習成果アンケート」は学内情報ポータルサイト〔KCN（Keiai Campus Navigator）〕を活用し、スマートフォンを用いて回答させている。選択肢の「よくできている」「できている」を統合し「あてはまる」群、「あまりできていない」「できない」を統合し「あてはまらない」群とした。表中の人数と%は、「あてはまる」群の数値を示す。

「使命感」の下位カテゴリーとして「社会的責任」「自己管理」「生涯学習」を設けた。「総合的な子ども理解」には「保育に関する知識」「保育技術」「保育実技」を、「コミュニケーション・課題解決」には、「コミュニケーション・スキル」「チームワーク」「リーダーシップ」「課題解決力」を、それぞれ下位カテゴリーとして設けた。さらに「ICT活用」も設けた。

「総合的な子ども理解」「ICT活用」の項目については、1年生に回答を求めるには

高度すぎる項目もあるが、学習成果の評価を継続的（入学時・進級時・卒業時の3回）に実施し、達成状況の推移を把握すること、あるいは、学生に自己評価する際に卒業までの達成目標として意識させること等をねらいとし、あえて実施している。

令和4（2022）年度卒業生の学習成果アンケート結果について、「使命感」と「コミュニケーション・課題解決」について述べる。令和3（2021）年度卒業生と同様、入学時から「使命感」の「社会的責任」「自己管理」、及び「コミュニケーション・課題解決」の「コミュニケーション・スキル」「チームワーク」は評価が高い。教育者・保育者を目指すという明確な意思と自覚を持っており、思いやりを持って他者と協働することができると自己評価していることがわかる。これは、本学のアドミッション・ポリシー①「教育者・保育者を目指す明確な意思をもち、生活面・健康面での自己管理ができ、学び続けることのできる人」や、同③「対人関係能力に優れ、他者と協働し思いやりをもって子どもたちと関わることができる人」と合致している。

一方で、「生涯学習」の項目である「読書をして幅広い知識や教養を得ている」については、入学時は40%台と低いが、メディアセンター委員会や学生の図書係を中心にさまざまな読書推進活動を実施しており、成果を上げている。

また、「保育に関する知識」「保育技術」「保育実技」については、入学時からある程度高く、本学のアドミッション・ポリシー②「日頃より教育・保育に関する事柄に広く関心をもち、子どもの成長・発達について理解を深めようとする態度をもっている

人」と合致している。「保育に関する知識」と「保育技術」については、卒業時に大きく能力を伸ばしており、授業や実習を通して保育者に必要な知識・技術が修得できているものと考える。なかでも「子どもの発達に即した良質の絵本を選べる」「子どもが楽しめるような絵本の読み聞かせができる」が卒業時に95%以上となっているが、「認定絵本士」取得をめざす学生が高い意識で取り組んでいる成果であると考えられる。

また、「コミュニケーション・課題解決」の「リーダーシップ」項目である「人前に立ち、皆の意見をまとめられる」や「課題解決力」の項目である「自己の考えを論理的にわかりやすく他者に伝えられる」が、入学時はともに50%台と低いが、それぞれ確実に能力を伸ばしている。令和2(2020)年度から、全授業科目において、学習成果の一つである「コミュニケーション・課題解決」と各授業科目の内容との関連についてルーブリックを作成してシラバスに示し、より明確に評価できるようにしている。グループ・ディスカッションにおいてグループの意見をまとめ発表したり、テーマに沿って自分の主張を論理的にまとめ、他者にわかりやすく伝えるプレゼンテーションを行ったりする機会を増やし、教員がより具体的なフィードバックをしていくことで、「コミュニケーション・課題解決」の資質・能力育成を目指してきた。この資質・能力は、令和3(2021)年度入学生カリキュラムから開設された、初年次教育としての「敬愛スタートアップゼミ」(1年前期)での学びによっても育成されるものと考える。さらに行事や委員会活

動、クラス活動での協働により育まれるのではないかと考える。

アクティブ・ラーニングの推進についても、教職員対象の FD・SD 研修において複数回取り上げる等、強化している。

ICT 活用については、「Word(文書作成ソフト)を使える」「Excel(表計算ソフト)を使える」「PowerPoint (プレゼンテーションソフト) を使える」「パソコンや映像機器を活用したプレゼンテーションができる」の項目のすべてで、入学時より卒業時の方がかなり高くなっている。基礎科目「情報処理」(1年通年) や専門科目「教育方法」(2年半期) 等による教育の効果が見られる。また、コロナ禍でのオンデマンド授業の実施を通して、Google Drive などのクラウド・サービスや学内情報ポータルサイト〔KCN (Keiai Campus Navigator)〕の利用に習熟し、各スキルが高まったものと思われる。今後もいっそうの ICT 技術活用の可能性を目指す。

項目内容			あてはまる (%)		
			入学時	進級時	卒業時
使命感	社会的責任	保育者を志す者としての自覚がある	81.5	92.6	95.9
		保育に対する高い志や情熱を持っている	82.3	89.3	93.9
		子どもの最善の利益を意識している	89.2	94.3	98.0
	自己管理	場面に応じて身だしなみを整えられる	92.3	96.7	100.0
		場面に応じた言葉遣いができる	86.9	99.2	95.9
		健康管理ができる	80	91.8	95.9
		提出期限や集合時刻などのルールを守る	76.2	90.2	98.0
		指示されなくても自分で考えて行動できる	79.2	82.8	91.8
		自己の行動を振り返り改善できる	84.6	86.9	93.9
		計画性を持って行動できる	66.2	74.6	77.6
	生涯学習	読書をして幅広い知識や教養を得ている	46.2	43.4	65.3
		資格を意欲的に取得している（認定絵本士、認定ベビーシッターなど）	70	82.0	89.8
		自己の課題の解決に必要な能力やスキルを習得するように努めている	72.3	89.3	87.8
総合的な子ども理解	保育に関する知識	子どもの年齢に応じた心身の発達段階について理解している	75.4	83.6	95.9
		子どもを取り囲む環境を整えることの重要性について理解している	89.2	97.5	95.9
		子どもが基本的生活習慣を身につけることの重要性を理解している	90.8	95.1	98.0
		保育に関するニュースや時事問題に関心をもっている	83.1	81.1	93.9
		保育所保育指針や幼稚園教育要領、幼保連携型認定こども園教育・保育要領等の内容を把握している	50.8	58.2	77.6
		子どもの発達の連続性を意識し、保育所・幼稚園・認定こども園と小学校との連携の重要性を理解している	86.9	91.8	93.9
		発達障害等の特性の理解、及びそれらを援助する上で重要な重要性を理解している	77.7	86.1	93.9
	保育技術	子ども一人一人の性格や能力、興味・関心を理解しようとしている	90.8	95.9	95.9
		一人一人の子どもを見ながら常に全体にも目を配ることができる	74.6	86.1	83.7
		子どもにわかりやすいような話しができる	83.8	91.8	89.8
		子どもの表情などから感情をとらえ、子どもの気持ちを大切にした援助ができる	85.4	92.6	91.8
		子どもがルールを守れるような援助ができる	78.5	90.2	91.8
		子どもの気持ちを汲んできんか等に対応できる	68.5	73.8	81.6
	保育実技	子どもが手遊び等を楽しめるような援助ができる	71.5	87.7	91.8
		ピアノなどの楽器を使い、子どもが楽しんで歌えるような援助ができる	50	63.1	87.8
		子どもの発達に即した良質の絵本を選べる	73.8	75.4	95.9
		子どもが楽しめるような絵本の読み聞かせができる	71.5	81.1	98.0
		子どものやってみたいという気持ちを大切にした製作活動の援助ができる	71.5	79.5	93.9
		子どもが楽しんで運動遊びが行えるような援助ができる	73.1	83.6	89.8
コミュニケーション・課題解決	コミュニケーション	自ら進んで明るく挨拶ができる	90	95.9	100.0
		他者の意見を受け入れられる	93.1	96.7	100.0
		他者の立場に立って物事を考えられる	89.2	95.9	93.9
		他者と良好な人間関係を築くことができる	87.7	96.7	95.9
	課題解決力	組織や集団の一員として自分の役割を果たすなど、自覚を持って行動できる	86.9	96.7	98.0
		報告・連絡・相談ができる	87.7	91.0	93.9
		目的の達成のために積極的に意見を出せる	71.5	75.4	83.7
	ICT活用	人前に立ち、皆の意見をまとめられる	53.8	51.6	67.3
		広い視野をもち、臨機応変に対応できる	74.6	82.8	85.7
		反省や経験を生かせる	86.9	88.5	98.0
		物事の問題点や課題を見つけられる	79.2	82.8	89.8
	課題解決力	自己の考えを論理的にわかりやすく他者に伝えられる	56.2	65.6	79.6
		多様な意見を統合してアイディアを生み出せる	66.2	68.9	79.6